

全国市街地の変遷

昭和の記憶から次代へ

尼崎市は兵庫県南東部に位置し、神戸・大阪方面へのアクセスが抜群である。市の東西が河川、南は大阪湾に面する立地により、明治時代の紡績工場稼働以降、旭硝子、関西ペイント、日本リーバ・ブラザース（現日油）などのほか、化学・機械金属系を中心に多くの工場が建設された。昭和初期には軍需産業の需要から、臨海部を中心に重化学工業地帯が形

成された。戦後は石炭・鉄鋼などの基礎産業部門で「鉄のまち」として復活。高度経済成長期に機械製造業が拡大したが、昭和後期になると、円高やバブル経済の崩壊などで製造業が衰退し、工場閉鎖により遊休地が増加した。05年、関西電力が建設されるようになり、パナソニック工場跡地で

力尼崎発電所跡地などにパナソニックのプラズマディスプレイの製造工場3棟が建設されたが、14年までにすべての工場が閉鎖された。この頃から国内では物流ネットワークの進展、インターネット、物流施設需要が増加。関西全域にアクセスが容易な臨海部でグローバル・ロジスティック・プロパティーズ、プロロジスなどにより大型物流施設が建設されるようになった。そこで、尼崎市は04年から臨海部で工場の緑地化を進め

は日本最大、アジア全域でも最大級のマルチテナント型物流施設として19年12月に竣工する予定だ。工業都市として発展する一方で、地下水の汲み上げによる地盤沈下、河川の水質汚濁、大気汚染が長年にわたり問題となった。05年には大手機械メーカー、クボタの旧神崎工場周辺でアスベストによる住民被害が発生し、新たな公害として社会問題となった。

NUTTOCITY

明治期以降続いた工場跡地を再開発

コンパクト化の先進例へ

る都市再生事業「21世紀の森づくり」を実施。13年に環境モデル都市に指定された。特に次の事業は少子高齢化に向けたコンパクトシティの先進例となっており、今後の地域まちづくりを生かされることを期待したい。

あまがさき緑遊新都心

この地区はJR尼崎駅北側に位置し、キリンビール神崎工場（1918年操業、96年閉鎖）、約100棟の工場と狭小住宅が密集する地域だった。JR尼崎駅は地域の拠点

であり、兵庫県東部の広域所、不動産鑑定士・神本文子



あまがさき緑遊新都心。駅前にはシンネコや百貨店が入る商業施設も



ZUTTO CITY。駅ビルとバス停整備で住民の利便性は向上した